

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

2015年 夏 号

# HEARTFUL

はーとふる

連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』活動紹介

千葉県・四街道明社

連載 未来を創造する子どもたち

第2回 いのちの大切さを伝える

被災地レポート「わすれない、いつまでも」

第5回 かながわ避難者と共にあゆむ会



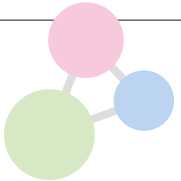
上) 実行委員を紹介する阿部光男会長。 左下) 生徒と取り組むボランティア活動を紹介する四街道高校の安田一夫校長。 右下) 佐渡斉市長も駆けつけ挨拶。

明るい社会づくり運動四街道協議会（以下、四街道明社）が、四街道市ボランティアセンター（以下、ボラセン）に登録したのは、昭和56年。以来、毎年「地域歳末たすけあい運動」の街頭募金を、2日間担当し、その後、身障者施設「永幸苑」のおむつたたみや入居者への癒しと若者の情操教育の地域交流コンサート開催などの協力を行ってきました。ボラセンへの明社の担当者は八尋浄明副会長です。関連する会議に出席しては、四街道明社との調整を担っています。

四街道市のボラセンに登録している個人ボランティアは418人、団体数は72。『四街道市ボランティアのつどい』（以下、『つどい』）は、登録会員の親睦を主目的に、毎年開催されているもので、主催は同実行委員会、四街道市社会福祉協議会（以下、社協）、四街道市ボランティア連絡協議会の3者です。

『第18回四街道市ボランティアのつどい』の実行委員長に阿部会長を推した社協の豊田紀幸さんは「実行委員の皆さんは、ボランティア活動に熱

リーダーシップと責任感から適任



**04**  
千葉県

明るい社会づくり運動  
四街道協議会

連載

## 『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』

活動紹介

昨年11月に開催した『全国都道府県会議』では、本運動がこれから目指していく具体的な「3つの方針」が発表されました。

- 1 地域のために活動している諸団体と連携し一緒に活動を行い、身近な問題に取り組む市民運動として展開していく。
- 2 行政等の実施する地域活動や催事に積極的に参加し、行政との信頼関係を築いていく。
- 3 地域に合ったさまざまな活動をきっかけに、地域社会に貢献したいという願いをもった個人・団体へ積極的に呼びかけ、善意の実践の場を提供していく。

地元の社会福祉協議会とボランティア連絡協議会が主催する

『ボランティアのつどい』の実行委員長を務めた地区明社があります。

千葉県の明るい社会づくり運動四街道協議会（阿部光男会長／以下、四街道明社）です。

開催までの経緯と当日の活動を紹介します。

※04は前回からの通し番号です。



心な方々ですが、阿部さんのリーダーシップと責任感から、実行委員長に適任だと感じました」と語ってくださいました。

### 絆の深さを感じさせる

1月31日午前10時から鹿放ヶ丘ふれあいセンターで開催された『つどい』には、32団体と個人ボランティアから141人が参加。四街道明社からは7人の会員が参加しました。

阿部実行委員長は、主催者挨拶のあと、9人の実行委員を頼もしく紹介。実行委員会を通して築いた絆の深さを感じさせる場面でした。

第1部の講演会は千葉県立四街道高校の安田一夫校長が登壇。「新時代における人間関係づくり」と題して、生徒と取り組むボランティア活動を紹介しました。

昼食後の第2部は懇親会。四街道ハーモニカクラブの演奏と「お座敷芸かつぱれ紫泉会」の舞踊が披露され、日頃の鍛錬の成果を発表する機会となりました。



### 『3つの方針』を体感

社協の豊田さんに、①『つどい』の成果と課題、②四街道明社への期待をお聞きしました。

普段の活動では、同じグループの方としか交流がない方もいらつしゃいますが、この『つどい』はグループを越えてボランティア同士が顔を合わせる数少ない場になります。実行委員同士のつながりが強く、のちの活動での連携に繋がったこともあります。今後も、普段の活動に繋がる、魅力ある『つどい』にしていかなければならないと思っています。

地域ではさまざまな場面でボランティアの力が必要とされています。四街道明社の皆様には、今後も活発な活動を展開していただければ幸いです。多くのボランティアグループが抱える課題に、「新たな活動の担い手の発掘」が挙げられます。活動の継続、そして、助け合いの世の中をつくるためにも、この課題に、ぜひとも取り組んでいただきたいと願っています。

実行委員長を務めた阿部会長に感想をお聞きしました。

新しい活動者呼び込もうと市外から講師を招くことを提案しましたが、説明不足もあり理解していただけませんでした。「講師は地元の校長を呼びたい」との意見が出され、自分の考えを押し付けるのではなく、メンバーの願いを引き出すことに徹しました。

『つどい』の参加者からは「実行委員のチームワークがよく、喜びで役目を果たしている姿が素晴らしい」とお褒めの言葉をいただきました。また、厳寒にも関わらず、交通整理や会場整備を笑顔で務められる姿を見たとき、「己を忘れて他を利する精神」のボランティアが地域には根付いており、むしろ私たちは一歩遅れてしまっているのではないかと反省しました。

今回の経験で、全国明社からご提示いただきました『3つの方針』を、体感することができました。地域のボランティア団体のつながりが強くなれば、社協との連携や協働が一段と進みます。共に支え合い、助け合う善意の実践の場を提供し、心豊かなまちづくりに貢献したいと考えています。

